

## あとがき

### 〈編集顧問〉

太田 保世  
諏訪 邦夫  
広沢弘七郎  
堀江 孝至  
村山 正博

### 〈編集委員〉

相澤 久道  
石坂 彰敏  
和泉 徹  
小川 聡  
永井 良三  
三嶋 理晃

### 〈編集協力委員〉

赤石 誠  
赤柴 恒人  
北風 政史  
近藤 哲理  
中沢 潔  
(五十音順)

長年日本の国民病として捉えられてきた結核に対する対策は、2006年12月の結核予防法の廃止を契機として大きく流れを変えた。今回は結核対策の現状と課題を5人の先生方にまとめていただいた。

三宅邦明先生らは、結核予防法が廃止され感染症法と予防接種法に統合された経緯と、入退院の基準や接触者検診などの手続きについて詳細に解説されている。さらに現在の課題として、地域格差、高齢化、集団感染、結核専門医不足、薬剤耐性結核、HIVとの重複感染問題などがあり、国を越えた取り組みが必要であるとされている。

御手洗聡先生は、結核診断に関して、細菌学的結核菌検出において排痰指導が重要な位置を占め、迅速性に優れる遺伝子検査法は、感度・特異度において培養法とほぼ同一であるとされている。また、免疫学的診断法として脚光を浴びているクオンティフェロン TB-2G に関しては、新規感染か過去の感染かを判別する技術の確立が課題であるとされている。

岡田全司先生らは、BCGに代わる新規ワクチン開発の現状を解説され、夥しい数のワクチンが試作されているなかで、(HSP65DNA+IL-12DNA) ワクチンが最も有望であるとしておられる。

和田雅子先生は、結核治療の現状に関して、2005年になっても、世界で160万人が結核で死亡し(その多くはアジア・アフリカ)、1993年にWHOが結核対策として打ち出したDOTS(Directly Observed Treatment, Short-course)戦略では各国の結核は制圧されていないとの認識が必要であるとされている。また、HIV感染者の結核発病と、多剤耐性結核が、結核が制圧されない要因であり、このためには治療を中断せずに十分な治療を受けられるための経済的な基盤整備が必要としておられる。

長尾啓一先生は、1999年に発せられた結核緊急事態宣言で、医師への啓発が進み結核治療の遅れの原因の一つとなる doctor's delay が改善されることが期待されたが、結果としては改善されなかった点に言及され、今後実践を核とした結核教育の充実が不可欠であるとしておられる。

結核患者数が急速に減少しつつあった1960年代には、20世紀末までに結核は撲滅されるであろうとの見方もあった。しかし、現実は厳しい。多くの若い命を奪い去った、また奪いつつある結核を人類が一日も早く制圧することを望む。

(三嶋理晃)

## 呼吸と循環 (第56巻 第7号)

2008年7月15日発行(毎月1回15日発行)

定価 2,730 円(本体 2,600 円+税 5%)

(2008年、年ぎめ予約購読料 31,800 円)  
(税込み、配送料弊社負担)

E-mail: kotojun@igaku-shoin.co.jp

Web <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/kotojun>

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

電話 本誌編集室直通 (03) 3817-5703

(担当: 菊池・今田)

販売部直通 (03) 3817-5659・5660

ファクシミリ (03) 3815-7802

振替口座 00170-9-96693 番

印刷所 三美印刷株式会社 電話 (03) 3803-3131

広告申込所 (株) 医薬広告社 電話 (03) 3814-1971

• Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2008, Printed in Japan.

• 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

**JCLS**〈(株)日本著作出版権管理システム委託出版物〉

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(電話 03-3817-5670, FAX03-3815-8199)の許諾を得てください。